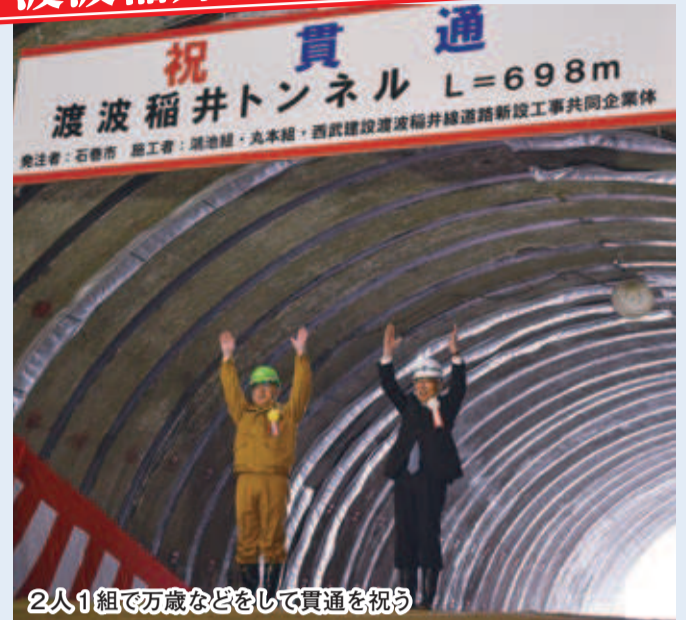


来春開通へ 順調な工事を祈願

渡波稲井線のトンネル貫通式



2人1組で万歳などをして貫通を祝う



図 都市計画課(内線5623)

発破の点火スイッチを押す亀山市長ら

東日本大震災で被災した渡波地区と、内陸の稲井地区を結ぶ都市計画道路として新設工事が進む「渡波稲井線」で4月13日、「渡波稲井トンネル」(698m)の貫通式が行われました。新型コロナウイルス感染症の予防を徹底した上で、市や施工業者の関係者が出席し、無事故でトンネルが貫通したことを祝い、来年3月の全線開通に向け、工事の順調な進展を願いました。

貫通式はトンネル内で行われ、亀山市長ら4人が発破の点火スイッチを押すと構内には爆発音が鳴り響き、工事関係者が貫通を報告しました。貫通部の清めの儀式などに続き、出席者が貫通部分を通って稲井側の出口まで歩き、工事の進み具合などを見学しました。

渡波稲井線は渡波地区の国道398号と県道稲井沢田線を直結する延長約3.5kmで、平成29年6月に着工しました。トンネル掘削は昨年7月に始まり、約8カ月で貫通しました。全線開通後は、水産加工業が集中する渡波・魚町地区と三陸自動車道石巻女川インターチェンジとのアクセスが向上し、災害時には沿岸部から内陸部へ避難路、緊急輸送路の役目も担います。

SDGsで未来を変えよう!



図 SDGs地域戦略推進室(内線4223)

今回は、未来をより良く変えるための17の目標「SDGs(持続可能な開発目標)」のうち、目標1と目標2についてご紹介します。

1 貧困をなくそう

目標1 貧困をなくそう

あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

貧困状態(1日1.9ドル(約200円)未満)で暮らすのは約7億6,700万人



世界には、生きていくために必要最低限の生活ができない「絶対的貧困」に苦しむ人が大勢います。豊かな日本では身近に感じる人は少ないかもしれませんが、貧困は途上国だけの問題ではありません。

日本は、貧困のもう一つの考え方である「相対的貧困(その国の平均水準よりも経済的に貧しい状態の貧困)」の比率が他の先進国と比べて高く、特に一人親世帯の貧困率は50%を超え、深刻な問題になっています。

ターゲットの主な内容

- ・極度の貧困(1日1.25ドル(約135円)未満で生活する人々)をあらゆる場所でなくす。
- ・貧しい人も、生きていくために必要な基礎的サービスなどが受けられるようにする。

市の取り組み例

- 生活困窮者自立支援事業
経済的に生活の維持が困難となる可能性のある方などに対して、就労その他の自立に関する支援をします。
- ほかに…
・ひとり親家庭等自立支援給付金事業
・生活保護事業、・子どもの貧困対策事業など

わたしたちにできること

- さまざまな理由で捨てられる食品を困っている人などに届ける「フードバンク」活動など、貧困家庭を支援する活動に協力しましょう。

市の取り組み例

さんまるいちまる

●3010運動
毎月10日と30日に冷蔵庫の中身を確認する、宴会では始めの30分間と終了前10分間は料理を楽しむなど、食料廃棄の減量を推進する取り組みです。

ほかに…
・「食」の自立支援事業など

ターゲットの主な内容

- ・飢餓を撲滅し、貧困層や幼児など弱い立場にある人も含め、全ての人が1年中安全で栄養のある食料を十分得られるようにする。
- ・小規模食料生産者の農業生産性および所得を向上させる。

目標2 飢餓をゼロに

飢餓を終わらせ、食料安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する

飢餓で苦しむ人は世界におよそ8億人もいます。栄養が偏り、命を落とす子どももたくさんいます。

しかし、単純に食料生産量を増やせばいいわけではありません。生態系を守り、土地がやせないように注意して農業を行わなければ、いずれ荒地地となり、食料の減産につながってしまいます。

また、日本は食料自給率が37%と低く、多くを輸入に頼っています。ところが、売れ残りや食べ残しなどの理由で本来食べることができずに捨てられる「食品ロス」の量は、世界の中でも特に多くなっています。

2 飢餓をゼロに

日本の食品ロス
年間643万トン

1人あたりごはん1杯分を毎日捨てていることに

わたしたちにできること

- 食品ロスを減らすことは、世界の飢餓を減らすことにつながります。買い物をするときに食べられる量を考えてムダ買いをしない、冷蔵庫の中身を確認し消費期限が切れる前に食べるなど、普段の生活から心掛けましょう。

